

〈監修〉永山 寛先生 (日本医科大学脳神経内科 准教授)

……よだれが出て困っています。どうしたらよいですか？

唾液は常に分泌されており、口の中を洗浄する役割を担っています。通常、余分な唾液は無意識に飲み込んでいますが、パーキンソン病では飲み込む回数が減るため、口の中で唾液が余っているように感じることがあります。まずは、出来るだけ意識して唾液を飲み込むようにしましょう。アメをなめたり、ガムを噛んだりすると、飲み込みを助けてくれると思います¹⁾。

……幻覚はあるのですが、軽いので気になりません。治療しなくても大丈夫でしょうか？

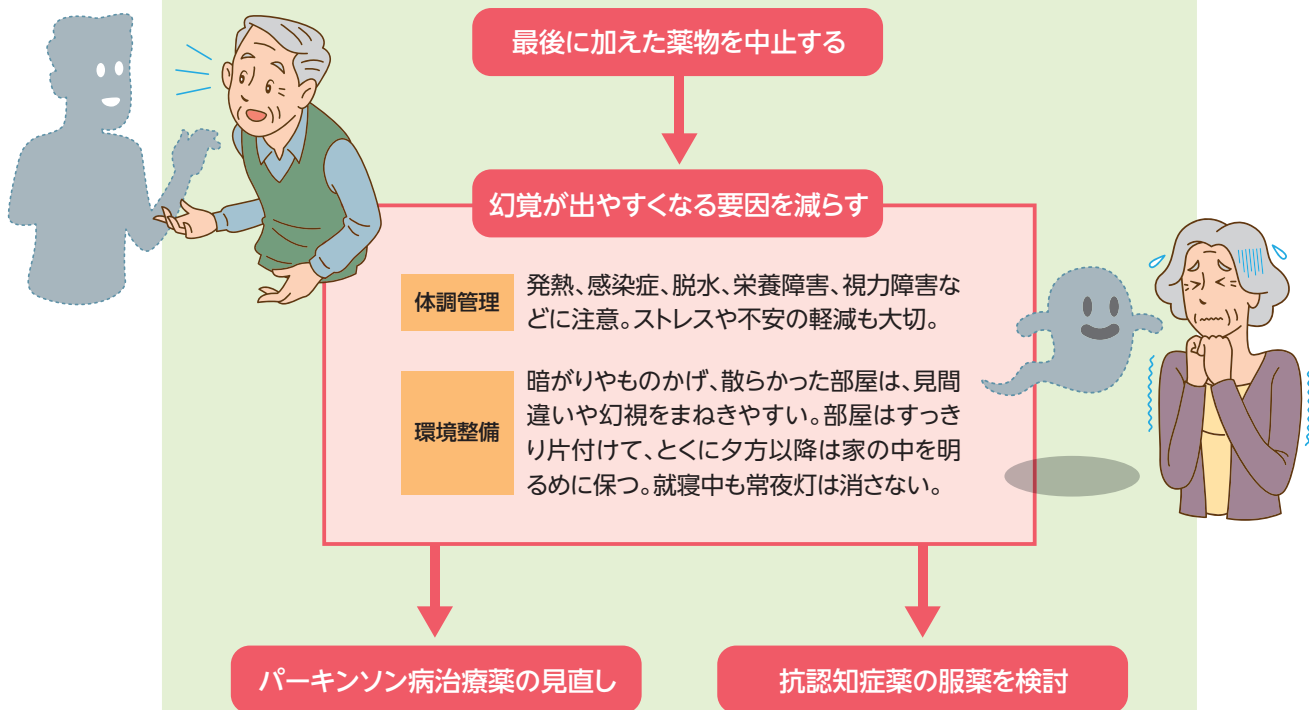
患者さんご自身が幻覚であることを理解していれば、治療しなくてもよいことがあります。ただし、幻覚であることを理解していても苦痛に感じている場合や、幻覚を現実として固く信じておられる場合は治療が必要です。幻覚は、お薬の量を増やしたり、お薬を変えたりしたときに特に出やすいので、まずは主治医に相談のうえ、服薬内容の見直しを考えましょう。なお、幻視(実際には無いものが、存在するかのように見えること)の場合は、部屋を明るくすると消えることもあります^{2,3)}。

家族や周囲の方へ

患者さんが幻覚を訴えると、家族や周囲の方は戸惑ってしまいます。しかし、「おかしいことを言わないで」などと頭ごなしに否定せず、まずは患者さんの訴えに耳を傾けてあげることも大切です。

●幻覚では服薬内容の見直しも検討

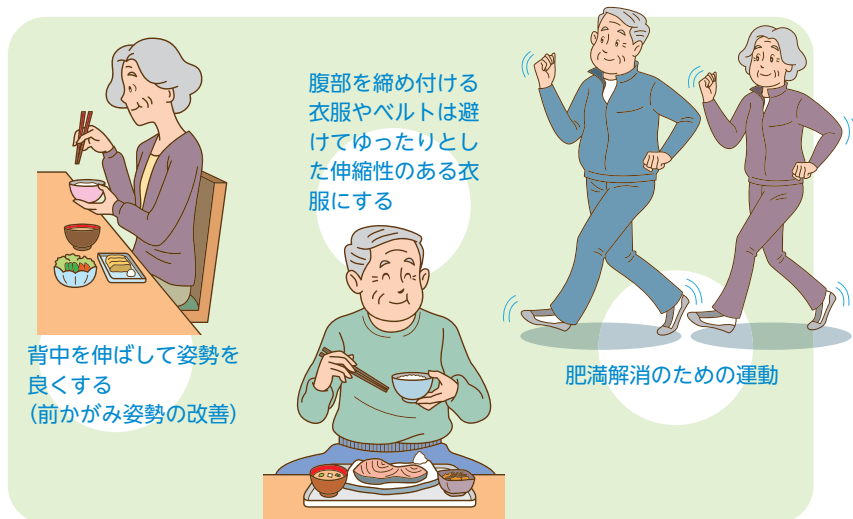
患者さんが幻覚と理解しておられても苦痛に感じている場合や、幻覚を固く信じている場合には、服薬内容の見直しも検討します。



……………食欲はあるのですが、すぐ満腹になってしまいます。どうしたらよいですか？

パーキンソン病では、胃や腸の働きが悪くなることがあります。その場合、食べ物や胃から腸にスムーズに送られずに留まってしまい、すぐに満腹になってしまいます。

暴飲・暴食、早食いは避け、脂肪分や刺激が少なく、消化の良い食べ物を選びましょう。食事の回数を増やし、1回に食べる量を少なくすることもよいでしょう。また、右図のようなことについても試してみましょう。



……………パーキンソン病のお薬を飲むと眠くなります。どうすればよいですか？

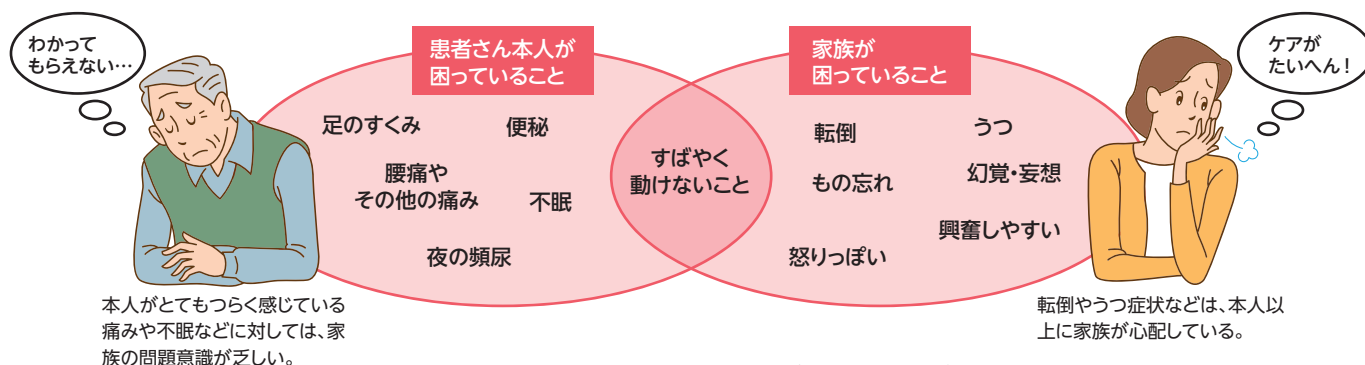
パーキンソン病のお薬によって眠気が出る場合があります⁴⁾。その場合、自己判断で服薬を中止せずに、まずは主治医に相談しましょう。薬を減らすか、ほかのお薬に変えることで改善することがあります。また、頻尿や体の痛みのために十分な睡眠がとれていない場合は、それらの改善を含めて治療を工夫しますので、お悩みのことがあればあわせて主治医に相談しましょう⁵⁾。

……………患者の家族です。患者とはどのように接したらよいでしょう？

まず知っていただきたいことは、パーキンソン病の症状によって患者さんが困っていることと、ご家族が困っていることが少し違うということです。患者さんの生活の質(QOL)をあげるためには、まずは患者さんの悩みを知っていただくことが大切です⁶⁾。

そのうえで、患者さんがご自身でできることには手を貸さなくても大丈夫です。むしろ発症初期の頃は、時間がかかっても自分ができることは自分でやるように患者さんを励ましましょう。ただし、危険が伴う場合には積極的に手を貸しましょう。

●患者さんが困っていることと家族が困ることは少し違う



永山 寛先生
からのコメント

パーキンソン病では、動きの遅さやふるえなどの運動症状に加え、幻覚や眠気などの非運動症状も多くみられます。非運動症状の一部は運動症状に先行するものもあり、診断にとっても重要です。しかし患者さんにとっては、診断後、しばらくすると必ず向き合う症状です。個々の症状を主治医とよくご相談ください。

参考資料

1) 武田篤(柏原健一ほか編)：みんなで学ぶパーキンソン病。南江堂、東京、pp32-33、2013。
2) 前田哲也(平成28年度神経変性疾患領域における調査研究班編)：パーキンソン病の療養の手引き。pp74-76、2016。http://plaza.umin.ac.jp/~neuro2/parkinson.pdf
3) 柏原健一(監修)：パーキンソン病のことがよくわかる本。講談社、東京、pp78-79、2015。

4) 渡部晶夫ほか編：今日の治療薬(2018年版)。南江堂、東京、p947、2018。
5) 柏原健一(柏原健一ほか編)：みんなで学ぶパーキンソン病。南江堂、東京、pp36-37、2013。
6) 柏原健一(監修)：パーキンソン病のことがよくわかる本。講談社、東京、p8、2015。